

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人社団 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田東3丁目277番地1		
自己評価作成日	令和7年11月1日	評価結果市町村受理日	令和 8年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102582-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・平屋建ての2ユニットで渡り廊下でつながっており自由に行き来出来ます</li> <li>・北側の居室でも天窓があります</li> <li>・花壇があり庭を歩行運動しながら、山や花壇の花を見たり、気候が良い日には近所の散歩をし楽しんで生活しています</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、平屋建ての建物2棟が渡り廊下で繋がっており、利用者は自由に行き来ができる。天窓があり、リビングも居室も陽の光が入り易く、明るい環境となっている。利用者は天気の良い日に散歩に出かけたり、ベンチで日向ぼっこをしている。職員の洗濯物干しの手伝いや花の水やりをする人もある。職員は、理念に基づき常に利用者の思いに寄り添うケアに努めている。管理者は両ユニットを担当しており、全職員と風通しの良い関係作りに努め、情報を共有しながら支援に取り組んでいる。勤続年数の長い職員も多く、利用者も落ち着いて暮らすことができている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の・利用者本位・優しい心・笑顔・地域との交流を職員室に掲示し、理念を反映させた目標設定にして共有しています	理念は玄関と職員室に掲示し、事業所独自の目標も、3か月毎に設定している。職員は、目標達成を常に意識し、ケアに取り組んでいる。また、目標についての反省や意見を出し合い、検討、見直しを図り、新たな目標を立て、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の情報を把握しています 回覧板は利用者と一緒に持って行き、挨拶し地域交流できるようにしています	自治会に加入し、利用者と一緒に回覧板を近隣住民に届けている。顔馴染みの関係もでき、野菜等の差し入れを受けたり、地域の認知症カフェで旧友と再会できた人もある。カフェでの催し物担当が持ち回りとなっており、職員が音楽療法を行う際には、利用者も参加している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段の様子や連絡事項、相談など家族との話し合いを密に行っています	毎回、運営推進会議には家族にも参加を呼びかけており、土曜日開催では、7名の参加が実現した。行政は土日参加が難しい為、平日と土曜で工夫しながら開催している。事業所活動やヒヤリハットなどを報告し、意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会でもある。提供しているサービスを明らかにし、利用者サービスの向上と質の確保を図ることを目的としている。開催日の工夫をしながら地域住民の代表者、多方面からの参加呼びかけに期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者、包括支援センターの方に、運営推進会議に出席していただき、普段から包括の方と連絡をとり、意見や提案を頂いています 苦情についても相談しています	行政や地域包括支援センターが運営推進会議に参加している。地域高齢者の現状を聞く機会でもあり、困難事例や苦情対応等についても相談している。また、助成金や補助金の案内等が届き、手続き等で協力を得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています 具体例を挙げ各棟の会議にて話し合っています 玄関施錠については利用者の様子を見ながら行っており介助中は安全な対応で見守りしています	身体拘束適正化委員会を開催している。転倒が多い利用者場合はセンサー設置を提案、改善に繋げている。また、午前中にリハビリ体操を行う事で、下肢筋力低下を予防している。定期的に研修を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束チェックを行い、各棟会議にて対応の方法を話し合いをし虐待防止に努めています	虐待防止委員会は、身体拘束適正化委員会と同日開催している。虐待の種類や行為、スピーチロックについて話し合い、理解を深めている。定期的にチェックシートでの自己評価や振り返りを行っている。管理者はメンタル面のサポートにも取り組み、職員の言動や対応を注意深く観察し、声掛けしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議にて伝達する事で、職員の理解や知識を身につけています		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者、家族に詳しく説明し、疑問等に関し十分な説明、対応をする事で理解を頂き同意を得ています		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの希望や要望はいつでも話を傾聴しています 面会の際に様子の報告をし、電話やLINEで家族様の要望や相談を伺っています	家族から、面会や外出の問い合わせも多く、来訪時や運営推進会議で、直接、意見や要望を聞いている。毎月、利用者の写真と個別メッセージも載せた便りを送付している。家族と情報を共有し、意見等は運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場に入る事で、管理者と職員の話しやすい環境作りをし、日頃から代表へ伝えています	管理者は、各会議で出た意見、現場で職員から聞いた意見を代表に伝えている。業務の中で気づいた事やアイデアについては、速やかに話し合っている。事故防止対策は、職員の意見を尊重し、出来る限り速やかに改善に繋げるよう努力している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の職員の事情を把握し、各自が向上できるよう又管理者や職員の考えを聞き、やりがいのある職場環境に努めています	休憩室や休憩時間の確保、職員の希望休や有給休暇等、適切に取得できるよう取り組んでいる。急な欠勤は職員同士が協力し、柔軟に対応するチームワークが育っている。管理者は常に職員とコミュニケーションを図り、職場環境の整備に取り組んでおり、離職者が少ない。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの心のケア、接遇対応の先生との相談をする時間があります 管理者研修に参加し相談する機会があります	3ヵ月毎の目標を掲げ、振り返りを行い目標達成に向けて意識の統一を図っている。管理者が受ける研修があるが、職員の介護力のアップに繋がるよう研修資料を回覧し、重要ポイントも伝えている。また、接遇対応の講師に、職員の心のケアについて相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	東部地区のほっとメイト会に参加し、情報収集や意見交換、相談をしながらサービスの向上につながるようになっています		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族には、ホームからの新聞や電話で様子を伝え、家族にしか出来ない事は協力して頂いています		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の思いを把握しています 困難な人は、表情や動きを観察し、家族からも情報を得るようにしています 生活記録、申し送り、会議で情報を共有し統一したケアを行っています	利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるよう努めている。意思疎通が難しい人には動作や仕草から推し量っている。職員間で情報を共有し、各棟会議で、現状と課題点を話し合いながら、利用者の願いを実現できるよう支援に取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について常に相談しそれぞれの意見も参考にしています 気付いた事やアイデアをすぐに話し合える環境があります	利用者と家族の思いについて、ケア会議で話し合い、医師や職員の意見を参考にしながら、介護計画を作成している。日頃から、職員は利用者一人ひとりをよく観察しており、状態の変化に伴い、介護計画の見直しをしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプラン経過記録、生活記録を記入し職員間で情報を共有しています 記録を参考にすると共に、各棟会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています	利用者個々の生活記録、排泄、食事量等はタブレット端末に入力し、申し送りは手書きノートで情報共有している。常に各棟の情報を全職員が把握できるようにしている。ケアプランと実践記録を連動させ、統一したケアを提供している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望、又職員の要望もあり、買物、病院受診等の支援をしています 気分転換に、外出をし柔軟な支援に心掛けています 外部のヘルパーに依頼する事もあります	買い物代行や受診同行、外部ヘルパーの利用など、利用者と家族のニーズに合わせ、柔軟に対応している。コロナ禍以降、ボランティアの受け入れを控えている為、敬老会では、職員が音楽療法を行うなど、楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、ホームの近くを散歩して近所の方との触れ合いを心掛けています		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の芥見診療所から訪問診療に来ています 普段から体調不良時は連絡をし支持を受け対応しています 特に外部の受診に関して、かかりつけ医には文章で状態を伝えるようにしています	契約時にかかりつけ医の選択ができることを説明している。母体の診療所を選ぶ利用者が多く、月2回の往診を受けている。体調変化時には、速やかに医師の指示を受けることができる。希望者は歯科往診も可能である。他の医療機関や専門医への受診は家族同行としている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、相談員との情報交換を密にし、本人、家族が安心出来るような対応を行っています また早期退院が出来るように医療機関との連携や面談をし退院後の対応も指示を受けながら行っています	入院時はフェイスシートや情報提供書で利用者の状態を伝えている。病院の相談員と情報交換を行い、退院時カンファレンスには管理者が参加している。利用者との面会した上で、状態を確認し、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化のあった方は常に主治医に報告するようにしています 終末期のあり方については、主治医、家族、職員をまじえて説明、どのような方針か話しをし、看取り介護の契約をします	契約時に重度化や看取りについて説明し、家族の意向を確認している。状態変化時には再度、意向の確認をしている。医師、看護師、栄養士、職員、相談員等と家族が話し合いながら、方針を決定、主治医から家族に説明し、看取り介護支援への同意を得ている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は速やかに主治医へ連絡し指示を受けながら対応しています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した訓練、水害を想定した訓練を行っています 災害食作りも毎年行っています	定期的に避難訓練を実施している。避難口は玄関と職員の出入り口、リビングの掃き出し窓の外にスロープを設置しベランダに出られるようにしている。備蓄用の米を使って、非常食作りも定期的に行っている。避難経路図は事務所の目に付く所に掲示している。	夜勤者に向けて、備品の保管場所を周知し、夜間常災害訓練の徹底など、災害対策の見直しに期待したい。また、前回に引き続き、地域の防災訓練に参加した上で、地域の協力を得ながら、事業所の災害対策強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重した声かけを行い、カーテンや暖簾でプライバシーを損ねないようにしています	居室入口に暖簾を掛けたり、浴室前には目隠し用カーテンを設置するなど、工夫している。また、利用者への言葉遣いや声のトーンなど、職員は、常に配慮ある対応を心掛けている。排泄や入浴支援では、同性介助の希望に応じている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく事で希望や、思いを伝えやすく、自己決定できるような声かけをしています		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛けています 病院受診や外出に合わせ、負担にならないような入浴日程の計画や1日のペースを考えています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士による献立により、担当する職員が昼食は手作りしています。献立には旬の野菜を取り入れ、簡単な料理は利用者も手伝っています 洗いものや、食器、お盆拭きは利用者に行って頂いています	昼食は調理専属職員が手作りし、利用者に応じた形態で食事を提供している。朝・夕の食事は湯煎食を利用するが、手作りの副菜を添えることもある。家族や近隣から差し入れられた果物や梅、キンカンなどをジュースにしたり、朴葉寿司を作って季節を感じられるよう工夫している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、食事の際のお茶も摂取出来ているか確認しています 管理栄養士指導の下、水分制限、塩分調整のある方は一回の食事でも個々に合わせて工夫しながら支援しています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けをし出来ないところは、一部介助しています 歯磨き困難な方は、スポンジや舌用のブラシを使用して口腔ケアをしています	朝・夕食後の口腔ケアは、利用者の状態に応じて介助し、昼は本人に任せている。就寝前に義歯の自己管理が難しい人には事務所で預かり、消毒して朝に返却している。必要に応じて、歯科往診や受診できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、オムツ使用の方でも立位可能な方、介助にて座位が出来る方は日中はトイレ誘導を行い、トイレで少量でも排泄が出来、気持ちよく過ごせるよう自立に向けた支援をしています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は何時でも入れるように準備しています 汚染の場合や、家族との外出など、個々に沿った支援をしています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活パターンを把握し、日中横になり休んで頂く方もみえます		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認できるようにしています 薬の準備は訪問診療で話したことを申し送り、また職員2人以上による薬の確認をしています	以前、誤薬事故を経験しており、以後は、ダブルチェックを基本とし、薬袋の色分け、氏名、日付の確認、飲み込みまでを複数人で確認している。処方変更時は、利用者の体調変化を正確に伝えるための独自書式を作成し、医師に報告、相談している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を見つけ、その人らしい生活が送れるように支援していきます	利用者が、入居前から楽しんでいたカラオケや俳句、習字など、継続できるよう支援している。カラオケは、皆が一緒に歌って楽しんでいる。洗濯物たたみやチラシで作るゴミ箱作りなど、役割として楽しみながら継続できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日はホームの庭か周辺を散歩しています 季節を味わっていただけるよう、春は花見、秋は紅葉狩りにて公園の散歩やドライブに出かけます 家族と外出や外泊をされる方もみえます	天気の良い日は、ベンチでお茶を飲んだり、外気浴をするなど気分転換を図っている。花の水やりや洗濯物を干す作業を手伝う人もある。車で季節の花見や紅葉狩りに出かけている。家族と外食や外泊をする利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はお金を所持していません。家族と相談し、千円程度持たれ安心される方もみえます		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があったとき電話を掛けるように支援しています 又携帯電話使用される方が増えていますが、うまく使えない事があり、一緒に使用する事もあります		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に色とりどりの花を植えたりしています 談話室にも季節の花をかざり、季節を感じられるようにしています 食事以外は固定された場所を作らず、居心地良く過ごせる場所に移動し過ごしています 車椅子の方は椅子やソファに座っていただくなど工夫しています	広いベランダから陽の光が入り、リビングは明るい。対面式キッチンから調理する様子が見え、匂いも漂ってくるなど、家庭的な空間になっている。車椅子利用者も、リビングでは、出来るだけ椅子やソファに移乗して、少しでも機能低下を予防できるよう支援している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が近くの席で座れるよう配慮しており、会話や会話やレクレーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみ等されています また雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等の配置は、利用者様の身体状況によって考え、ご自宅で使用してみえた家具や使用してみえた物を持ってきていただき、居心地よく過ごせるようにしています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないように家具の配置を工夫し、身体状況に応じて安全に移動ができるよう配慮しています		